

## 2 - 3 草の需要創出に関する検討（要約）

多様な草原タイプを維持していくためには、野焼きに加えて野草の採草を促進する必要があり、その活用が課題となる。草の需要創出に向けて、野草の流通促進、さらにはバイオマス・エネルギー等としての可能性について検討を行う。

### （１）草の需給状況調査（JA ヒアリング等中間報告）

草の流通に関係する関係機関へのヒアリングを通じて草の需給状況の概況を把握。

#### <野草の流通について>

- ・ 野草が牛にとって良いということは農家の方でも認識している。
- ・ 個人的な取引はあるようだが、JA 阿蘇、菊池では取り扱っていない。
- ・ 以前は野草の利用は一般的だったが、ダニの問題が発生して以来人気が落ちてしまった。

#### <稲わらについて>

- ・ 阿蘇地域では草の需要に国内産の草、特に稲わらが不足している。
- ・ 阿蘇産の稲わらの人気の理由は、減農薬或いは無農薬なため、牛に安心して食べさせることができる。
- ・ 稲わらは天日乾燥に頼っているため、含有水分が多いことがある。（希望の水分は 15%）

#### <野草の需要を促進するための提案>

品質について	・ 野草のビタミン含有量などがわかれば、その良さをアピールできる
ダニの問題について	・ 酪農家に比べ、肥育農家にとって野草のダニはそれほど深刻な問題ではない ・ ダニの問題は、野草を火力乾燥させることで大分解決することができる ・ “野草＝ダニ”のイメージを変え、野草の良さをもっと理解してもらう
堆肥としての利用	・ 野草を良質の堆肥として利用することで、需要をさらに伸ばせるだろう
稲ワラの不足分	・ 現在の稲わらの不足分を野草で補うこと
採草技術	・ 機械の購入・管理・維持費等の初期投資とコストの問題を解決する ・ 傾斜地をなくす ・ 野草の早刈りを行い、飼料としての需要を高める
後継者の育成	・ 後継者の育成

### （２）草の需要状況調査の実施について

阿蘇郡およびその周辺地域の農家を対象に、現在どのように草が利用され流通しているかを把握するためのアンケート調査を実施中。現在回収作業中で未集計。

### (3) 牧野組合調査(中間報告)

阿蘇郡内の全牧野組合を対象として、アンケート調査を通じて採草と草資源の利用状況について把握。

- ・ 牧野組合の約半数が採草を行っている。
- ・ 採草を実施していない理由として多くあげられているのが“良い草がない”、“家畜頭数の減少”、“牛を飼っていない”など、農業形態の変化に伴う理由が多く見られる。
- ・ 採草状況については、野草牧草ともにトラクターの利用が主だが、野草は刈払い機や小型収穫機の利用も多い。
- ・ 野草の品質については高品質、または問題がないと答えた牧野組合の数が半数以上を占めているが、牧草について高品質、あるいは問題ないと答えた牧野組合の割合が半数を下回っている。
- ・ ダニの問題があると答えた牧野組合は、野草・牧草ともにゼロである。
- ・ 今後の草の販売については、半数が検討していない。